

令和7年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立田原中学校

I 学校経営方針

◎四條畷市教育振興基本計画

予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもから大人まで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要です。(四條畷市教育振興基本計画より)

みんなの学びが叶うまち ～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～

★上記の基本理念に基づき、校区の子どもたちの実態を踏まえ、学校教育目標を以下のように定め、様々な教育活動に取り組んでいく。その際のキーワードには下線を記入している。

学校教育目標

- 《安心》・・・子どもたちの居場所があり、安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。
- 《信頼》・・・「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。
- 《笑顔》・・・子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

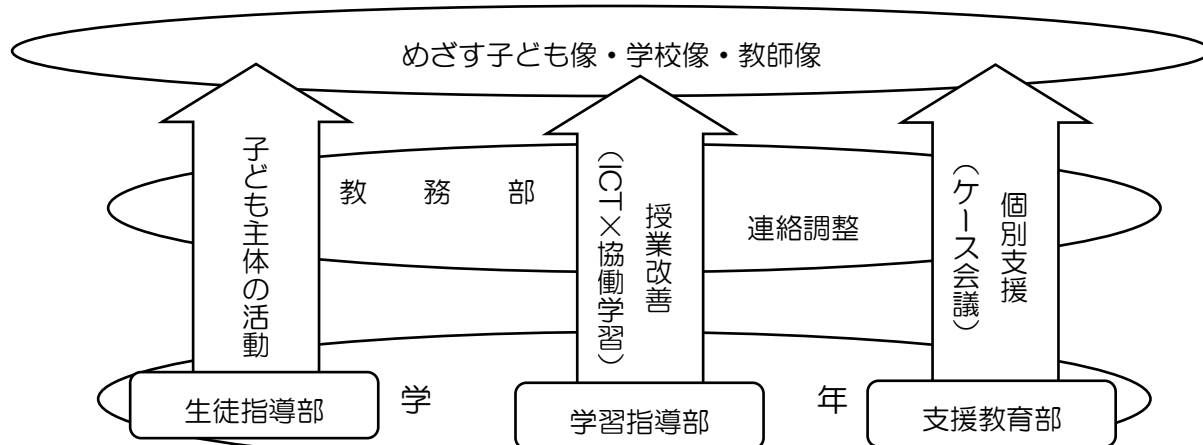
基本方針

(1) 確かな学力と進路指導の充実(主として学習指導部)

- ・生徒が自ら課題を見つけ、主体的に取り組むように努め、基礎学力の定着を図る。
- ・GIGAスクール構想に基づき配布されたタブレットPCを十分活用し、個別最適な学びの充実を図る。
◎個別最適な学びが孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士や他の人との協働的な学びについて調査・研究を深め、実践を進める。
- ・小学校からの系統性のあるキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって自分に合った進路選択ができるような進路指導に努める。

(様式1)

- (2) 豊かな心の育成と温かい人間関係作り（主として学年）
- ・人間関係作りの基本として挨拶の推進、そして承認、賞賛、感謝の声掛けに取り組む。
 - ・学年担任制を導入し、様々な出会いを大切にし、多様な価値観や考え方のあることを知ることで、他の人への思いやりの心の醸成を図る。
 - ・道徳教育や人権教育の理念を大切にし、子ども自らがこれからの生き方について、しっかりと考えることができるよう取り組みを進めていく。
- (3) 生徒指導の充実（主として生徒指導部・支援教育部）
- ・生徒指導は子ども理解からとの考えのもと、日頃からの声掛けや観察を大切にし、問題行動等の適切な未然防止・早期対応に努める。
 - ・子ども理解に向け、支援教育について研鑽を積み、これまでの常識にとらわれない理解に努める。
 - ・適切な集団作りは、適切な子ども理解があってこそできるのであって、教える側の理想とする集団作りは時により子どもの成長を止めてしまうこともあることに留意する。
- ◎生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに自主・奉仕・協調の精神を育てる。
- (4) 健康管理・安全教育・食育の推進（主として生徒指導部）
- ・自らの体力を知り、生涯にわたって運動に親しみ、自ら健康を管理し、改善していく資質や能力を育成する。
- ◎安全の大切さを認識させるとともに、自他の生命を尊重し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。
- ・登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、安心・安全な学校体制の充実を図る。
 - ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。
- (5) 地域に開かれた学校づくり（学校運営協議会及びこ小中連携会議）
- ・自分たちの生活する地域の環境に目を向け、素晴らしい環境を守り、郷土愛を育む。
 - ・こ小中の連携をすすめ、同じ方向性で校区の子どもたちの成長を支える取組みを計画的に実践する。
 - ・学校運営協議会の充実を図り、地域の学校として地域に愛される学校づくりをめざす。



校長 川地 秀治

(様式1)

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

<p>★めざす学校像</p>	<p>キャッチフレーズ《はなそう、つながろう、やってみよう》 こども園、小学校、中学校とで連携して各学校園の卒業時のめざす子ども像を、学校運営協議会でコミュニティ・スクールとしてのめざす子ども像とした。</p> <p>《中学校》 「はなそう」：<u>大人にも子どもにも本音でしゃべれる子</u> ※自分の思いを相手の気持ちを尊重しつつ工夫して伝えられるように 「つながろう」：<u>誰とでも幅広く交友関係を持てる子</u> ※決まった相手だけでなく多くのつながりを持ち、結果全体としてまとまることができるように 「やってみよう」：<u>失敗を恐れず自分で考えて行動できる子</u> ※結果に左右されず自分の興味関心に基づいて様々なことにチャレンジできるように</p>
<p>★めざす子ども像</p>	<ul style="list-style-type: none">• 人権、個性が尊重され、一人ひとりが生き生きと活動できる学校• 子どもたちが楽しく学び、確かな学力が身に付く学校• 美しく学習環境が整った学校• 地域に開かれた学校(コミュニティ・スクール)
<p>★めざす教師像</p>	<ul style="list-style-type: none">• 教職員が豊かな人間性と社会性を持ち、教育のプロとしての自覚を有し、尊重しあいながら連携・協力する、<u>同僚性豊かな教職員</u>• 社会情勢について注視し、生徒や学校における課題を見つけることができる教職員• 課題を明確に把握し、常に情熱と使命感を持ち、チームを意識した職務遂行に当たる教職員• 危機管理意識の高い教職員

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

(良い面)

きちんと学ぼうとする気持ちが強く、授業にも前向きに取り組む生徒が多い。

授業態度も良く、ペア学習やグループ学習にも積極的に参加できる。

昨年度の取組みから様々な学校行事や学年行事において主体的に取り組む参加しようとする姿が見られる。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

家庭環境的にはとても落ち着いている生徒が多い。

教育熱心な保護者が多い。

②地域

一小一中で、9年間を見通した取組みができる。

③組織(教職員、PTA、保護者)

(教職員)

学校規模の縮小により人数が少なくなってきたため、学年・各部を超えて同僚性を有してチームで連携して協力することが必要であり、逆にそのことを強みとして取り組んで行く必要がある。また、授業力改善に向けての取組みは、とても進んできた。新しい先進的な取組みに触れることで更なる飛躍をめざしたい。

(PTA、保護者)

教育熱心な家庭が多いため、教育活動に寄せる関心度は高い。

保護者の大部分は、学校の頑張りはしっかりと評価し、協力体制も安定している。

PTA活動は協力的で、学校や地域の行事にも積極的に参加する人が少なくない。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分I 『学校経営』

A 今年度の成果目標

達成基準(各種調査、アンケート等)

- ①「ICT×協働学習」を本校における授業改善の目標に置き、そのための取組を進めていく。
- ②生徒会活動に加え、授業においても子ども主体の取組みをすすめる、田原中校区のめざす子ども像の実現を図る。
- ③支援教育の理念を大事にし、子ども理解に基づいた学習支援・個別支援及び生徒指導を進める。
- ④キャリア教育の視点で学校の教育活動を再構築することで、自己有用感の醸成を図る。

学習に関するアンケート
(学期ごとに実施)
学校教育自己診断アンケート
(学期ごとに実施)

(様式1)

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価(◎達成、○改善、△未改善)
①-1 学習に関する生徒アンケート項目「ICT 機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか。」の肯定的回答 ①-2 「ICT 機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか。」の肯定的回答 ①-3 学習に関する教職員アンケート項目「タブレット PC を教員以上に活用した。」の肯定的回答	①-1 現状 64% 目標 80% 7月 76% 11月 77% ①-2 現状 56% 目標 70% 7月 63% 11月 62% ①-3 現状 76% 目標 80% 7月 70% 11月 77%	①-1 1月 80% ①-2 1月 61% ①-3 1月 75%	①-1◎、①-2○、①-3△ 本年度は、研究授業や相互授業参観に基づく授業改善を組織的に推進し、授業改善に努めた。その結果、「ICT 機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか。」の肯定的回答が、かなり高めに設定した80%という数値目標に到達した。また、「ICT 機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか。」の肯定的回答は目標には到達しなかったものの、昨年比を上回るようにはなっている。「タブレット PC を教員以上に活用した。」の肯定的回答は、昨年比を上回ることができなかった。一学期、年度当初大きく数値が減少した。その後組織的な取組みを進めることにより数値は微増したが、目標に達することができなかった。
②-1 学習に関する生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答 ②-2 自己診断生徒アンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的回答 ②-3 自己診断生徒アンケート項目「あなたはつらい時、困っている時に相談することができますか」の肯定的回答	②-1 現状 78% 目標 90% 7月 85% 11月 83% ②-2 現状 88% 目標 100% 7月 87% 11月 88% ②-3 現状 77% 目標 90% 7月 85% 11月 81%	②-1 1月 81% ②-2 1月 81% ②-3 1月 82%	②-1○、②-2△、②-3○ あいさつ運動が『「こころの再生」府民運動@スクール表彰』で表彰されることになるなど、学校全体や地域を含めての挨拶の推進や、承認、賞賛、感謝の声掛けを行ってきて、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答が改善され、自己肯定感の涵養が図れた。また、学年担任制によるさまざまな先生と触れ合う機会の設定や密な情報交換、生徒主体の「いいところを見つけるキャンペーン」等で、「つらい時、困った時に相談すること」ができる肯定的回答も改善された。一方で、「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的回答は改善が見られなかった。生徒に対する教員の支援や寄り添いがより生徒に実感できる手立てや、教職員の技術の向上等の検討を推進し、取組みを進めていきたい。
③-1 学習に関する生徒アンケート項目「学校に行くのは楽しい」の強否定的回答 ③-2 学習に関する教職員アンケート項目「支援教育の視点から指導上の工夫を行いましたか。」の強否定的回答	③-1 現状 13% 目標 0% 7月 10% 11月 15% ③-2 現状 5% 目標 0% 7月 0% 11月 5%	③-1 1月 9% ③-2 1月 0%	③-1○、③-2◎ 学年担任制の導入に基づく多面的多角的な生徒理解が行われ、体育大会をはじめとする各種行事が生徒主体での取組み、あいさつ運動や、承認・賞賛・感謝の声掛け等により、「学校に行くのは楽しい」気持ちを持たない生徒を減らしてきた。研修や会議、日々の情報交換等を通じ、生徒に応じた指導の意識が教職員の間で幅広く共有されるようになってきており、否定的回答、強否定回答もいずれも0%であった。次年度の目標は、③-1 は肯定的回答(現状72%)を増やす、③-2 は強肯定回答(現状35%)を増やす方向で取り組む。

(様式1)

④学習に関する生徒アンケート項目「将来の夢や目標を持っている。」の肯定的回答	④ 現状 67% 目標 80% 7月 76% 11月 78%	④○ 1月 74%	④○ 本年度は目標を意識させ、目標に対する振り返りを強く意識した教育活動に取り組むとともに、こ小中連携によるあいさつ運動やこども園等へのボランティア活動、各学年のキャリア教育等を通じ、目標には届かなかったものの、昨年比を上回る数値となった。今後も、夢や目標を意識する教育活動を推進していきたい。
--	--	--------------	--

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)		
<p>①チーム田原として、教職員それぞれが自分の得意・不得意を認識し、得意なことはチーム田原のために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような環境づくりを構築する。</p> <p>②こ小中連携を軸として、子どもの成長を長いスパンで見ること、子どもの良さと課題を共有しつつ具体的な教育活動ができる組織づくりをめざす。</p>	<p>学習に関するアンケート (学期ごとに実施)</p> <p>学校教育自己診断アンケート (学期ごとに実施)</p>		
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価(◎達成、○改善、△未改善)
<p>①-1 学習に関する教職員アンケート項目「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の肯定的回答</p> <p>①-2 自己診断教職員アンケート項目「日々の教育活動における課題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができています。」の肯定的回答</p>	<p>①-1 現状 94% 目標 100% 7月 96% 11月 95%</p> <p>①-2 現状 87% 目標 100% 7月 100% 11月 95%</p>	<p>①-1 1月 95%</p> <p>①-2 1月 95%</p>	<p>①-1○、①-2○</p> <p>学年担任制を導入し、定期的に週に一度、教職員で打ち合わせを行う時間を設定するとともに、日々の情報交換を自然に行う職場環境となった。そうして相互に相談や助言できる雰囲気醸成されるとともに、職員会議や運営委員会等において、情報共有する環境となっていた。</p> <p>ストレスチェックの学校としての結果は、仕事の裁量度、技能の活用度、働きがい、上司からの支援は良い結果となっているが、心理的な仕事の負担(質量とも)、職場環境のストレスの結果は悪い結果となっている。学年担任制が、初年度不慣れなことから教職員にとって負担が大きかった面がある。また若手や経験の少ない教職員にとっては支えになっており、経験豊かな教職員には仕事の裁量や技能の活用の面ではプラスに出ているが、若手や経験の少ない教職員を支えるための仕事の負担が心身に大きい結果になっていることが伺える。</p>

(様式1)

<p>②自己診断アンケート「こども園、小学校、中学校の連携した取組みは充実していますか。」の肯定的回答</p>	<p>② 現状 82% 目標 90% 7月 59% 11月 78%</p>	<p>②△ 1月 65%</p>	<p>②△ こ小中連携会議や、あいさつ運動、ボランティア活動、こ小中合同研修等こ小中が連携した取組みを実施してきたが、教職員の意識として充実したものになっていない面がある。実施時期や内容の改善を検討し、アンケート項目の内容を「こ小中の連携した取組みは効果的なものである」等に修正する方向で検討する。</p>
---	---	----------------------	---

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>①様々な教育活動において、常に目的を意識した取組みを推進し、目的に対する達成度の視点での振り返りの定着を進める。 ②先進的な教育実践に触れることで教員としてのスキルアップを図り、学校教育を俯瞰的に見る姿勢を育成する。さらには、市全体に対して発信できるスキルを身につけさせたい。</p>		<p>学校教育自己診断アンケート (学期ごとに実施)</p>	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価(◎達成、○改善、△未改善)
<p>①-1 学校自己診断アンケートの項目「本校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の強肯定的評価 ①-2 学校自己診断アンケートの項目「職員会議をはじめ各種の会議が、情報交換や課題検討の場として有効に機能している。」の肯定的評価</p>	<p>①-1 現状 44% 目標 50% 7月 25% 11月 27% ①-2 現状 87% 目標 100% 7月 96% 11月 96%</p>	<p>①-1○ 1月 45% ①-2○ 1月 90%</p>	<p>①-1○、①-2○ 職員会議やその他各種会議の他、本年度から導入した学年担任制が実施されることにより学年打ち合わせを実施する時間の確保など情報共有の強化を図った。また、目的を意識した各活動の振り返りを実施した。そのようなことから、目標には届かなかったが改善を図ることができた。教職員の意識を高めることができるよう、各種会議や打ち合わせが有効であるように、今後継続した取組みや取組み内容の精選、会議により教職員が新たな発見や成長ができるような工夫を取り入れていきたい。</p>
<p>②学校自己診断アンケートの項目「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。」の肯定的評価</p>	<p>② 現状 94% 目標 100% 7月 79% 11月 77%</p>	<p>②△ 1月 85%</p>	<p>②△ 先進的な取組みの学校の訪問や優れた教職員の授業参観、日常的な情報交換等により、学んだことや得られたことを本校全教員で共有してきた。年度当初、昨年比からかなり低い数値であり、改善してきたが、昨年比を上回ることができなかった。ICT機器の活用に関しては非常に高い数値を示している一方で、それが「話し合い、まと</p>

(様式1)

			め、表現するなどの学習活動」につながっていない面がある。次年度はICT機器の活用が「話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」につながる授業改善に注力していきたい。
--	--	--	--

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
コミュニティ・スクールとしての定着を図る。PTA活動や地域教育協議会の活動を通して顔のわかる関係作りを進めることで自分たちの地域の自分たちの学校としてのイメージの定着を進める。		学校教育自己診断アンケート (学期ごとに実施)	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価(◎達成、○改善、△未改善)
学校自己診断アンケートの項目「学校は保護者や地域の人たちと話す機会を設けていますか。」の否定的評価	現状 18% 目標 0%	1月 26%	△ 学校運営協議会や保護者の方にプールの監視に参加していただいた。あいさつ運動やボランティア活動、ギター部による各催し物への協力等、また、屋台村や大とんど等のさまざまな活動に教職員の参加なども行ってきた。しかし、学校の業務時間以外における「保護者や地域の人たちと話す機会」の設定が、かつてのように拡充していくことが困難な現状の中、否定的評価が増加した面がある。次年度は、適切な情報発信・意思の疎通の観点を重視し、「学校は家庭への連絡や意思の疎通を積極的に行っていますか。」の肯定的回答が67%であることに注目し、その数値の向上を図るといふ観点で取り組みを進めていきたい。

5 学校関係者による評価(学校運営協議会等)

令和8年3月6日(金)の学校運営協議会において、本報告書を説明し、中学校がたいへんがんばってやっている、良好である、評価できるとの評価をいただいた。以下に主な意見を掲載する。

- ・人によっていろいろな違いがある中、対話が大切であるということに非常に共感した。一人ひとりが大切だということを教える時代であるので、この方針を元に推進していってほしい。
- ・数値が下がったり上がったりしているが、長い目を持って進んでいってほしい。
- ・保護者の考えも変わってきている中、先生も大変だとは思っている。教職員のつながりを意識した取り組みをしているが、先生同士も仲良くすることで、それを子どもも無意識に感じることで、教職員の連携を重視した取り組みを進めてほしい。
- ・かつては一斉授業中心で、前を向いて書いていけば良かった。自分の意見をしっかりと主張するのが苦手な生

(様式1)

徒が多い。大人が手をつないで地域で子どもを見ていく、良い形で地域が子どもたちの受け入れができれば良い。

- さまざまな価値観の大人がいる中、「職場の人間関係ができていく」の肯定的回答が95%とはすばらしい。こ小中の連携がすごく下がっているが、中心的な役割の先生とそうでない先生とのギャップが大きいのであろうか。来年度からの課題である。
- しっかりしている。自分のところもしっかりとしていかなければならない。
- 真摯に取り組んでいる。目標到達していないと言っているが、ほぼほぼ達していることに敬意を表す。メン
- 子どもたちも相談できる場所がある、先生方も相談できる場所があることを知っておいて欲しい。
- 教職員がよくやっており、すごく頑張っている。先生たちも自己肯定感をあげてほしい。いじめのことが気になる。いじめたほうが悪いことを地道に伝えて欲しい。来年度の目標として対話が大事とのこと。よろしくをお願いします。
- 校長が元気だと教職員も元気になるので、組織をまとめてほしい。身体に気を付けて、子どもに時間をとってあげたい。

6 総合評価と次年度に向けて

本年度の学校に対する評価は、保護者や生徒へのアンケート結果からはますます良好であったと言える。しかしながら、本年度導入された学年担任制について、教職員同士の交流や情報交換、経験や知識交流による若手や経験の少ない教職員の物心両面の支援や教職員の技量の向上、学校としての組織的な対応等、効果的な面が多くある一方、経験豊かな教職員の負担の増大、保護者への情報発信や意思の疎通の観点等の課題がある意見が寄せられた。来年度は、良い面は残しつつ課題の改善を図る形での学年担任制を実施し、より良い学校運営を行っていくように考えている。

現在、学校教育目標は

《安心》…子どもたちの居場所があり、安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。

《信頼》…「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。

《笑顔》…子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

である。従来の良い部分を残すことは当然大切である。しかし、現在学習指導要領や生徒指導要領をはじめ、さまざまな形で変化する現代社会の在り方とともに、重視すべきポイントが変化してきている。

最も基本となり、大切であるのは、安心である。安心できる学校という部分を中心に、従来の良いところを残すことは重要である。

教育の目的である、教育基本法第1条にある「平和で民主的な国家及び社会の形成者」の育成を図ることが重要な学校の目標である。近年、「生徒主体の取り組み」「協働的な学習の推進」「主体的・対話的で深い学び」「個別支援の観点からの指導上の工夫」「挨拶、そして承認、賞賛、感謝の推進」といった内容が大切になってきている。よりふさわしい、重要となっている目標の設定が求められていると考える。

現在、大切な目標として追及されているものとして、大切なキーワードは、「自律」「対話」が重要になってきている、と考える。その理由は以下の通りである。

《自律》…教育の大きな目標は、将来の民主主義社会の担い手を育成することである。AI等ICT機器の活

(様式1)

用が進展している現代において、指示を待ち、指示通りに動くのではなく、自ら判断し適切に行動することが求められてきている。生徒による主体的な取組みが推進される背景の大きな理由である。生徒が今後社会の中で、自分で生きていく力を身につけていくことが大切である。自主性を重んじ自由ではあるが放任ではない、自らの力で自らを律し自律的に学習すること、自ら考え、判断し、行動することができる人材の育成が教育の根幹であると考えます。

《対話》…民主主義社会において最も大切なことは、対話による合意形成である。「みんな違ってみんないい」という言葉があるように多様性が尊重される時代にあるからこそ、違いを認め合う合意形成としての対話が非常に大切である。相互に尊重すること、安心できる学校づくり、その根幹ともいえるのが対話である。また、近年学校で進められている協働的な学び、対話的で深い学びを支えるとともに、多様性の中、異なる価値観や考え方を対話によって違いを尊重し、他者を理解することが、人権を尊重し健全な民主主義を育成するために大切である。対話を支えるコミュニケーションとしての、挨拶、そして承認、賞賛、感謝を推進していくこと、またそれが、生徒主体の取組みを支える基盤となる。そして、地域とのつながり・笑顔をなくすわけではなく、情報発信やつながり、安心及び対話によって生じる笑顔も今後なくすことのないよう、安心・自律・対話の中で信頼と笑顔を育むことも肝要だと思われる。

令和8年度から、以上の方向性で学校教育目標を設定し、それに応じて学校経営計画を立案し、基本方針を立てていく所存である。

令和8年度は具体的な方策として、以下のことを中心的に取り上げていきたいと考えている。

- ①来年度から、タブレット端末がWindows 端末からiPad 端末に変更される。ハードの変更とともに、ソフトも少なからず変更される。生徒・教職員ともに慣れていないものになり、効果的な活用ができるようになるまで時間がかかることが考えられる。その中でも、いち早く生徒・教職員ともに習熟できるよう、効果的な活用が進められるよう取組みを進める。
- ②引き続き来年度も、田原中学校区の大きなテーマとして掲げられている、「あなたはつらい時、困っている時に相談することができていますか」の項目の肯定的回答を増やす。生徒への学級や仲間づくり、保護者への働きかけを進める。教職員の意識として、生徒に対するアンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる」「先生はあなたの良いところを見問えてくれていると思いますか。」「相談しやすい先生はいますか。」の肯定的回答を増やす意識を持ち、つらい時、困っている時に相談しやすい雰囲気づくりを学校全体で取り組むようにすることを推し進める。
- ③学年担任制の大きな目標である、学校による組織的な対応の浸透を図る。「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の肯定的回答を増やすことができるように努める。
- ④学年担任制の大きな目標である、教職員が孤立することなく、課題や悩みについて誰かから助言を受けることができたり、気軽に相談できたりする教職員間の関係ができていく組織づくりを図る。
- ⑤日々の授業だけでなく、さまざまな教育活動におけるPDCA サイクルを意識し、ふりかえりを行い次にいかすよう努める意識作りを図る。
- ⑥教員の人気低下し、離職率も高くなっている状況の中、教職員が孤立することなく、悩みや課題など気軽に相談や情報交流できる職場づくりを推し進める。
- ⑦学校が地域や保護者への適切な情報発信ができるよう、「学校は家庭への連絡や意思の疎通を積極的に行っていますか。」の項目を意識した、適切な保護者連絡や情報発信の充実に努める。